

## 第3章 Brown 運動に関する確率積分

### 3.1 連続時間のマルチンゲール

$(\Omega, \mathcal{F}, P)$  を確率空間とし, フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}$  が右連続性:

$$\mathcal{F}_t = \mathcal{F}_{t+} := \bigcap_{u > t} \mathcal{F}_u$$

をみたすものとする.

定義 3.1 フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  をもつ確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, (\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}, P)$  において, 確率過程  $X(t) = X(t, \omega)$ ,  $t \geq 0$  が  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲールであるとは,

(i)  $E[|X(t)|] < \infty, \quad \forall t \geq 0,$

(ii) 任意の  $t > s \geq 0$  に対して

$$E[X(t) | \mathcal{F}_s] = X(s) \quad P - a.s. \quad (3.1.1)$$

が成立する時にいう.

注意 離散時間のときと同様に, 上の条件 (ii) は次の (ii)' と同値である.

(ii)' 任意の  $t > s \geq 0$  と任意の  $B \in \mathcal{F}_s$  に対して

$$\int_B X(t, \omega) P(d\omega) = \int_B X(s, \omega) P(d\omega) \quad (3.1.2)$$

Brown 運動のマルチンゲール性

後の便宜のためにフィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  に関する Brown 運動を定義する.

定義 3.2 確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, (\mathcal{F}_t)_{t \geq 0}, P)$  において, 確率過程  $B(t)$  が,  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動であるとは,

- (i) 任意の  $t \geq 0$  で  $B(t)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測 (これを  $(\mathcal{F}_t)$ -適合という) .
- (ii)  $B(0) = 0$   $P - a.s.$
- (iii) 任意の  $t > s \geq 0$  に対して,  $B(t) - B(s)$  は  $\mathcal{F}_t$  と独立で, 平均 0, 分散  $t - s$  の Gauss 分布となる .

定理 3.1  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動  $B(t)$  は  $P - a.s.$  で次を満たす .  $0 \leq s < t$  とする .

- (i)  $E(B(t) | \mathcal{F}_s) = B(s)$ , つまり  $B(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .
- (ii)  $E(B(t)^2 - t | \mathcal{F}_s) = B(s)^2 - s$ , つまり  $B(t)^2 - t$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .
- (iii)  $E[e^{B(t) - \frac{t}{2}} | \mathcal{F}_s] = e^{B(s) - \frac{s}{2}}$ , つまり  $M_t = e^{B(t) - \frac{t}{2}}$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール .

練習問題 3.1 マルチンゲールの定義に従い,  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動の定義を用いて定理 3.1 を証明せよ .

### 3.2 階段過程の確率積分

定義 3.3  $(\Omega, \mathcal{F}, P, (\mathcal{F}_t))$  に対し,  $(\mathcal{F}_t)$ -適合な確率過程  $\Phi(t)$  が階段型とは, 自然数  $n$ ,  $0 = t_0 < t_1 < \dots < t_n < \infty$  と有界な確率変数列  $\xi_0, \xi_1, \dots, \xi_n$  があって,

- (i)  $1 \leq j \leq n$  に対して, 各  $\xi_j$  は  $\mathcal{F}_{t_{j-1}}$ -可測,  $\xi_0$  は  $\mathcal{F}_0$ -可測 .

$$(ii) \Phi(t) = 1_{\{0\}}(t)\xi_0 + \sum_{j=1}^n 1_{(t_{j-1}, t_j]}(t)\xi_j$$

の 2 条件をみたすときにいう .

階段型確率過程の全体を  $\mathcal{L}_0$  で表す .

定義 3.4  $\Phi \in \mathcal{L}_0$  に対して連続な確率過程  $I(\Phi)(t)$  を

$$I(\Phi)(t) = \sum_{j=1}^n \xi_j (B(t \wedge t_j) - B(t \wedge t_{j-1})) \quad t \geq 0 \quad (3.2.3)$$

によって与える。ただし、 $t \wedge s = \min\{s, t\}$  と約束する。  $I(\Phi)(t)$  を  $\Phi$  の Brown 運動による確率積分とよび、

$$\int_0^t \Phi(s) dB(s)$$

とも書く。

定理 3.2 (確率積分の性質)

- (i) ( $\mathcal{F}_t$ -適合性) 任意の  $t \in [0, \infty)$  に対して  $I(\Phi)(t)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測
- (ii) (連続性)  $I(\Phi)(t)$  は  $t$  について連続 *a.s.*
- (iii) (線形性)

$$I(\alpha\Phi + \beta\Psi)(t) = \alpha I(\Phi)(t) + \beta I(\Psi)(t) \quad a.s.$$

- (iv) (マルチンゲール性)

$$E(I(\Phi)(t) | \mathcal{F}_s) = I(\Phi)(s) \quad a.s.$$

- (v) (等長性)

$$E((I(\Phi)(t))^2) = E \int_0^t \Phi(s)^2 ds$$

さらに一般に  $t > v$  のとき、

$$E[(I(\Phi)(t))^2 - E \int_0^t \Phi(s)^2 ds | \mathcal{F}_v] = I(\Phi)(v)^2 - E \int_0^v \Phi(s)^2 ds$$

練習問題 3.2 ( $\mathcal{F}_t$ -Brown 運動の性質を用いて上の定理 3.2 を証明せよ。